

## 資料室だより 124

日本における西洋音楽史家の先駆者でありキリシタンのオラシヨ研究において独自の研究をされてきたグレゴリオ皆川達夫先生が先月 4 月に逝去されました。聖グレゴリオの家には先生ご寄贈の LP と CD、また書籍を多く所蔵しております。録音資料はご紹介しきれないほどたくさんありますので、先生のご著書だけここにご紹介し、冥福をお祈りしたいと思います。先生は 1989 年から 2014 年までグレゴリオの家の評議員をなされ、1995 年には教会音楽の夏期講習の講師にお招きしております。また 2006 年には「洋楽渡来考：キリシタン音楽の栄光と挫折」出版のための録音を当聖堂で監修なさり、聖歌隊がそれに協力しております。

以下は資料室が所蔵する先生のご著書です。

- \* 合唱音楽の歴史 (全音楽譜出版社 1965)
- \* オラシヨ考 (私家版 1978)
- \* 西洋音楽ふるさと行脚 (音楽之友社 1982)
- \* バロック音楽 (講談社現代新書 1986)
- \* 西洋音楽史: 中世・ルネサンス (音楽之友社 1991)
- \* 楽譜の歴史 (音楽之友社 1992)
- \* 中世・ルネサンスの音楽 (講談社学術文庫 2009)
- \* 洋楽渡来考 (日本キリスト教団出版局 2004)
- \* 洋楽渡来考再論 (日本基督教団出版局 2014)
- \* キリシタン音楽入門 (日本キリスト教団出版局 2017)

先生は日本における西洋音楽史の大御所であられたのみならず、日本のキリシタン迫害時代の音楽をオラシヨの伝承を通して先生の専門分野である中世ルネサンス音楽史に遡及し結び付けた独自の研究の 2 本柱で大きな業績を残されました。命がけで守った信仰のかたわらにいつも音楽(聖歌)があったということ、音楽の根源的な力というものを現代の私たちに対して証明してくださいました。隠れキリシタンの住む生月島へのフィールドワークとヨーロッパの図書館への体当たりのご調査、これが先生の学識と直感に支えられて結実したのが上記の「洋楽渡来考」です。

先生は死の時を迎える間際までラジオ番組「音楽の泉」を通して音楽愛好家に語り掛け続けてこられました。音楽を愛する人々とともに生涯を全うされ、ご自分の誕生日に天国にお帰りになりました。いつもグレゴリオの家のことを心にかけてくださっていた先生に心より感謝し、お別れを申し上げます。

(杉本ゆり 記)